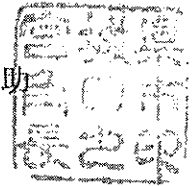


角 上 第 797 号

平成 20 年 10 月 23 日

国土交通省道路局長 殿

角田市長 大 友 喜 助



今後の道路行政についての意見・提案について(回答)

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のあったこのことについては、別紙
のとおりです。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

宮城県角田市

国・県はもとより、地方都市にとっても道路財源は厳しいものがあり、住民の目線に立った道路整備のあり方、そして、行政の施策としての道路整備のあり方など、費用対効果を含め十分検討し必要と判断された道路を重点的に整備していくことが、これからの道路行政に求められていると考えます。

また、地方都市における道路整備率は依然低いものがあり都市間の格差が生じているのも現状であります。地域経済の活性化に大きく寄与する道路行政は地方都市にとって欠かせないものとなっており、公共事業の拡大や、地方都市が望んでいる路線の早期整備の実現を、強く要望するものです。

広域幹線道路へのアクセス道路整備については地方都市が鋭意努力していきますが、広域幹線道路の整備につきましては役割分担を明確にした国、県の道路行政に大いに期待するものです。

②—1 地域の現状と抱える課題

宮城県角田市

○現状

本市は、国道4号と国道6号、高速道路の東北自動車道と常磐自動車道が隣接市町を通過しており、幹線道路から離れた位置にあります。

国道4号からのアクセス道路とも言える国道349号が未整備のため東北の中心都市仙台への利便性が計られない状況にあります。国道349号は、白石川に架かる白幡橋の老朽化や、経由地である小坂地区では、狭いうえに屈曲部が多く、歩道も整備されていないことで安全が確保されていない状況にあります。

○課題

平成22年度に常磐自動車道（仮称）山元・角田ICを結ぶ路線（県道半田山下線）が開通するものの、東北自動車道白石ICを結ぶ国道113号の改良若しくは高規格道路の整備が望まれます。これにより、（仮称）山元・角田ICから白石ICを結ぶ横断軸が整備され、格段に高速交通網がその役割を発揮することになります。

国道4号から直結して国道349号に入れるよう白幡橋の架け替え整備が望まれます。

小坂地区等の歩道整備をすることで、通学等の安全が確保されます。

都市間の利便性を図り有効な土地利用による地域振興を図ることから、宮城県南部の都市間の連絡はもとより中心都市仙台との連絡をも見据えた幹線道路の整備を推進しなければなりません。また、大規模災害による被害を最小限にとどめることの必要から、災害時における緊急輸送道路網の確保や橋梁などの道路施設等の耐震化が重要課題となっています。

また、交通弱者を守るための、歩道などの交通安全施設の整備も住民のニーズから対応が急がれております。

②—2 地域の目指すべき将来像

宮城県角田市

道路網を整備し、都市間の移動を容易にして利便性を高めることは、企業誘致等による活力あるまちづくりや少子化を食い止めるための定住対策を進める上で、不可欠であります。国道、県道等の広域幹線道路網の整備を前提とした、有効な土地利用による地域振興を目指すとともに、災害時に孤立することの無いよう、緊急輸送道路網の確保を前提とした道路整備を行い、安全で安心できるまちづくりを進めることが大切です。

宮城県の高速道路網は縦軸が充実してきましたが、横軸が未整備で折角の高速道路網が十分に活かされていない状況です。そのためにも、東北自動車道白石ICと常磐自動車道（仮称）山元・角田ICを結ぶ高速道路若しくは高規格道路が必要で、県南地域の発展に大いに貢献することでしょう。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

宮城県角田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
・ 地域活力の向上 ・ 交通安全対策 ・ 危機管理の強化	・ 広域幹線道路網の整備 ・ 歩道の整備 ・ 橋梁等道路施設の耐震化促進	・ 都市間の利便性向上による新たな企業進出や定住化による少子化対策が期待できる。 ・ 交通弱者の安全確保が出来るとともに、住民ニーズへの対応が期待できる。 ・ 災害時の緊急輸送道路の確保が期待できるとともに、孤立化が防止できることにより住民の不安解消ができる。	・ 関係機関との連絡調整及び要望等を積極的に行う。